

本年度の営業スタート「ランチくりた」で舌鼓 生徒が調理、元気に接客

秋田市の栗田支援学校（佐藤博司校長）の高等部総合サービス科の生徒が校内で運営する食堂「ランチくりた」の本年度の営業が13日、始まった。地域住民らが訪れ、生徒たちは「いらっしゃいませ」と元気な声で出迎えた。月に1、2回のペースで営業する。

初日は、3年生2人と2年生5人が厨房とホールを分担。調理や接客、片付けなどを行い、チキンカレー、ポテトサラダ、コンソメスープ、マスカットゼリー、ドリンクを提供した。開店前から店外で待つ常連客の姿もあり、営業開始から30分ほどで満席になるほどのにぎわいを見せた。

ホールを担当した奈良和香さん（17）＝3年＝は「常連の方も初めての方もたくさん来てくれてうれしい。これからももっと多くのお客さんに来てほしい」と語り、三浦心寧さん（17）＝同＝は「地域の人たちとの関わりの中で、普段の授業だけにとどまらない学びが得られる」と話した。

食堂は、実践的な職業教育の場として2011年にオープンした。3年前から通う秋田市新屋の田中有子さん（45）は「今年の営業も楽しみにしていた。料理がおいしく、また生徒たちの礼節の美しさにも感動した」とランチを楽しんだ。

ランチは550円で、毎回メニューが異なる。次回の来月17日は新屋うどん、次々回の24日は豚すき丼の予定。午前11時～午後1時。問い合わせは同校

☎018・828・1162（原田大生）

（令和4年5月16日（月）秋田魁新聞記事より抜粋）

